

平成30年 2月20日

各 位

会 社 名 ラクオリア創薬株式会社  
代 表 者 名 代表取締役 谷 直 樹  
(コード番号：4579)  
問 合 せ 先 取締役専務執行役員 河田 喜一郎  
(TEL. 052-446-6100)

### 名古屋大学「ラクオリア創薬産学協同研究センター」設置決定のお知らせ

本日、国立大学法人名古屋大学（所在地：愛知県名古屋市、総長：松尾 清一、以下「名古屋大学」）の教育研究評議会および役員会にて、名古屋大学初の産学協同研究センター「ラクオリア創薬産学協同研究センター」の設置について決定されましたのでお知らせいたします。

名古屋大学産学協同研究センターは、外部機関や企業とともに多面的な産学協同活動を行い、名古屋大学における研究成果の産業界への活用を促進し、名古屋大学の研究の高度化及び高度人材育成の充実を図ることを目的としています。この度、名古屋大学の同センターの第一号として、「ラクオリア創薬」の社号を冠した同センターの設置が決定されました。

当社は、平成26年から平成27年にかけて、名古屋大学に3つの「産学協同研究部門・講座」を設置し、当社の創薬研究と多彩な技術やシーズを保有する名古屋大学との融合による創薬研究活動を行ってまいりました。具体的には、3年間で合計12件の共同研究の実施に加え、毎年1回の「名古屋大学-ラクオリア創薬 創薬シンポジウム」の開催、予防早期医療創成センター主催のワークショップ等での企業発表と産学官人材交流、博士研究員のインターンシップの受け入れから当社従業員としての新規採用、研究者と市民とのサイエンスカフェ「名大カフェ」への参加など、ライフサイエンスの基礎研究から応用研究への橋渡しや、中部圏におけるバイオ産業の啓蒙と振興に努めてまいりました。

「ラクオリア創薬産学協同研究センター」では、これまでの3つの部門・講座を統合し、新たに2つの部門「薬効解析部門」と「新薬創成科学部門」として生まれ変わります。環境医学研究所を受入部局とし、医学系研究科および創薬科学研究科の3部局がそれぞれ連携し、当社と名古屋大学各部局の強固なトライアングル連携体制を構築し、運営委員会による部局を超えた迅速な運営を実施します。また、当社の研究員を積極的に受け入れることにより、研究活動の更なる活性化が期待されます。将来的には、医学系研究科との臨床研究の推進も視野に入れ、産学連携の下で名古屋大学発の医薬候補化合物の創出を目指してまいります。

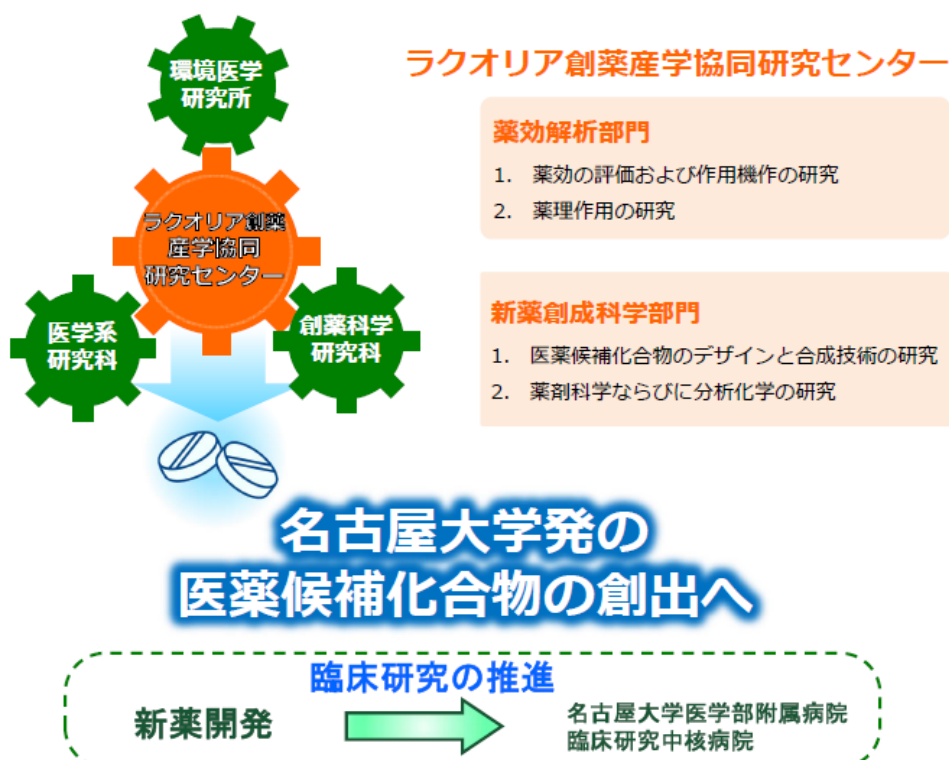
なお、本件による平成30年12月期（平成30年1月1日～平成30年12月31日）の当社業績への影響は軽微です。「ラクオリア創薬産学協同研究センター」の設立により、名古屋大学を中心とした創薬研究開発の進展を通じて、中長期的に当社の企業価値の向上に資するものと考えています。

以 上

<ご参考>

【「ラクオリア創薬産学協同研究センター」の概要】

|                 |   |
|-----------------|---|
| 1. 名称           | ラクオリア創薬産学協同研究センター   |
| 2. 目的           | 名古屋大学におけるラクオリア創薬の認知度を向上させ、多彩な技術やシーズを保有する名古屋大学と新薬創出を目指した共同研究を継続的に実施することで、名古屋大学における創薬研究活動をさらに発展的に加速させることを目的とする。   |
| 3. 設置場所         | 愛知県名古屋市千種区不老町（名古屋大学 東山キャンパス）  |
| 4. 設置期間         | 平成30年4月1日～平成37年3月31日（7年間）   |
| 5. 設置部門及び研究内容   | 1. 薬効解析部門<br>1) 薬効の評価および作用機序の研究<br>2) 薬理作用の研究<br>2. 新薬創成科学部門<br>1) 医薬候補化合物のデザインと合成技術の研究<br>2) 薬剤開発ならびに分析化学の研究   |
| 6. 受入部局         | 環境医学研究所<br>[協力部局：大学院医学系研究科、大学院創薬科学研究科]  |
| 7. 産学協同研究センター構成 | 1. センター長<br>澤田 誠（環境医学研究所 教授）<br>2. 副センター長<br>朴 熙万（薬効解析部門 特任教授）<br>3. 基幹教員<br>守口 由紀子（薬効解析部門 特任助教）<br>藤内 章嘉（薬効解析部門 特任助教）<br>川村 清（新薬創成科学部門 特任助教）<br>山岸 竜也（新薬創成科学部門 特任助教）<br>森田 幹雄（新薬創成科学部門 特任准教授）<br>大石 幸一（環境医学研究所 特任助教） |



## 【 国立大学法人 名古屋大学 】

名古屋大学は、明治4年に名古屋県の仮医学校・仮病院として発足して以来、長い歴史と伝統を有し、今年で創基147周年を迎えました。昭和14年に医学部と理工学部からなる名古屋帝国大学となり、昭和24年に新制名古屋大学として再出発しました。直近では平成24年に大学院創薬科学研究科が設置され、現在では9学部・14研究科、3附置研究所、19学内共同教育研究施設等及び附属学校を擁する世界的な研究重点大学となりました。日本のノーベル賞受賞者のうち6名が名古屋大学関係者であり、世界中に数多くの人材を輩出し続けています。産学官連携研究においても積極的・組織的に推進しており、平成26年には既存の3組織を一体化する形で「学術研究・産学官連携推進本部」が設置されました。基礎研究から産学連携に至るまで一貫した体制を持ち、名古屋大学と企業・地域を結ぶネットワークを構築することで、中部地域のものづくり拠点としての持続的発展を目指しています。